

校舎倒壊で多くの子が生き埋め 中国大地震

12日に中国の四川省で起きた大地震の被害の実態が明らかになるにつれて、その被害の甚大さに驚くばかりだ。

死者は5万人を上回ると推計され、家屋の被害も450万戸に達し、被災者は1000万人と報道されている。世界最大級の地震だ。

山間部の小学校では4階建ての校舎が崩れおち、800人いた児童の内600人が瓦礫の下敷きになって亡くなったとも報道されている。

多くの学校校舎が崩壊し、児童に甚大な被害が発生している。

こうした大災害でいつも大きな被害を受けるのが、子ども達や高齢者、障害者など弱者、貧しき人々だ。とても人ごとには思えない。日本でもいつ起きてもおかしくない。

船橋市でも崩壊の危険 23校

船橋市でも学校校舎の耐震診断の結果、構造耐震指標0.4未満（倒壊する危険が高く緊急を要する）の校舎は23校あるという。

1万人を越える児童、生徒がこうした校舎で学んでいることになる。

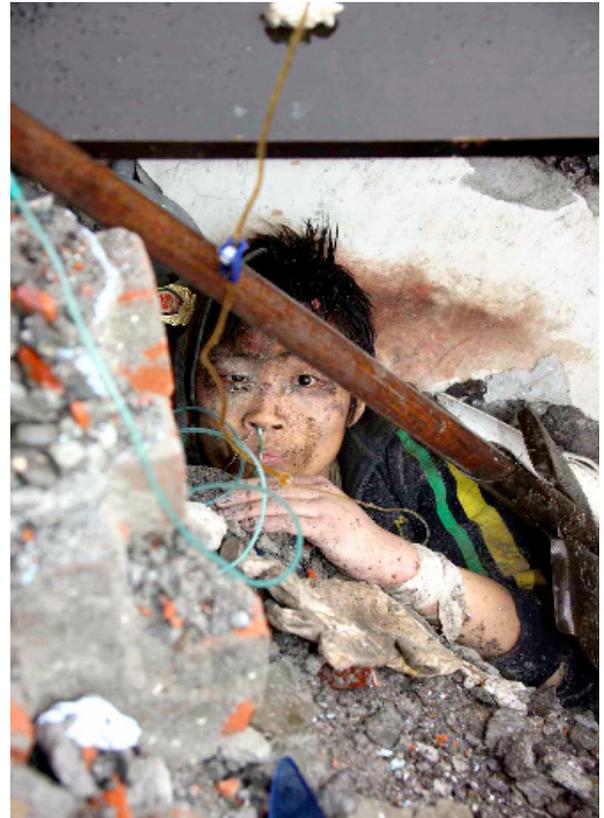
3月議会でこの問題を取り上げたが、船橋市の耐震診断改修に伴う予算の総額は4億6100万円、習志野市でさえ5億9670万円。

船橋市の学校校舎耐震化率は、H19年4月1日現在で24.7%、近隣の市川市の64.3%、習志野市の60.9%、鎌ヶ谷市の42.1%に比べると著しく低くなっている。

新年度予算で、校舎耐震改修が行なわれるのは古和釜中、小栗原小、高根台第三小の3校、体育館改修が若松小のみだ。

もっと予算を増やし耐震診断・改修を急ぐべきではないかと質したが、市は「学校の耐震改修は特段の配慮をし、前年度額を上回る予算を計上しており、増額はできない。」と答弁。まったく危機感がない。

6月議会で再度、この大新震災を教訓として、市の姿勢を厳しく質さなければならない。



四川省北川で13日、倒壊した中学校のがれきにはさまれ、救出されるのを待つ生徒（新華社）＝AP（朝日新聞より）

中国大地震救援金を受け付け

中国四川省で発生した中国大地震の救援金を受け付けています。皆様からお預かりした義援金は、日本赤十字社を通じて被災地へ届けられます。ご協力をお願いします。

受付場所

船橋市役所1階 □ビー 募金箱
3階 地域福祉課

郵便振替 座番号：00110-2-5605

□座名義：日本赤十字社

通信欄に「中国大地震」と明記してください。郵便局窓口での送金手数料は無料です。

浦田秀夫のホームページをご覧ください